

作品研究) 専攻科「美容芸術作品研究」修了作品

— Torreip —

(Completed works for the major course "Research on Beauty Art Works —Torreip—)

大平恵理香¹⁾ 栗本佳典¹⁾ 河野誠二¹⁾ 菊池信二¹⁾西 将隆¹⁾ 吉川奈菜子¹⁾ 富田知子¹⁾

抄録

芸術専攻授業 2 年間を通して修得した技術等を総集し、「美容芸術研究」の修了研究として制作した作品を紹介する。1 年のデザインの授業において選択したアール・デコ様式をコンセプトの基盤にして、テーマはピエロとし、二面性を表現した。実際にモデルを用いて作品づくりをし、撮影も行った。

キーワード：アール・デコ、毛髪、髪型、ピエロ、二面性、光、写真表現

I. はじめに

芸術専攻授業「美容芸術研究」の修了研究として制作した作品である。この作品の作成は 1 年次のデザイン様式を学び、アール・ヌーボーもしくはアール・デコを選択し、その上でテーマの設定をした。ヘア、メイク、諸材料の造形、完成作品の撮影までが作品制作となった。人体モデルを採用し、衣装はファッション学校の ESMOD JAPON にご協力をいただいた。

II. 作品紹介

人の 2 面性を表現したいと思い、ピエロをテーマとした。ピエロには、可愛い面とホラー的な扱いをされる怖い面があり、それを人の 2 面性として表現しようと考えた。タイトルもそれを表す「Torreip」とした。これはスペイン語で「ピエロ」を表す「pierrot」を逆にした造語である。

写真作品にすることを想定し、モデルの頭部および洋服は白に、背景は黒にすることで、画面の中で明と暗を表現した。

ESMOD JAPON に伺い、インスピレーションを受けた衣装をご提供いただき、それをデザインへと発展させて頭部のヘッドピースの制作を行った。アール・デコ様式の幾何学性を感じさせる頭部のギザギザの部分で、平面に髪をつけて頭部毛髪の心象を持たせた

が、固定が難しく、途中で大きさを変えるなど、いろいろ工夫が必要な部分もあったが、楽しくつくることができた。特に工夫した点は、頭部の飾りの部分に穴を空け、後ろから光を当てたときに透けるようにしたところである。このことで、作品に奥行きが出たと考える。撮影の際、写真作品として重要になったのが、モデルのポーズであった。プロのモデルを採用したことで、ポージングの豊かさが作品のコンセプトをより明確にしていると感じた。手に幾何学立体を持って撮影し、その重力をなくした非現実的な表現をするために、手元から上に投げてもらい、シャッターを切った。イメージどおりの表現となり、満足した作品になった。プロのモデルは 170cm 以上の身長があり、つくったヘアピースもバランスを保つことができた。実際の人に特殊なメイクをするため緊張感があったが、先生方の助言を受けながら無事終えることができた。

修了研究として、専攻科 2 年間を通した一連の授業を連携した作品で、かつプロのモデルを使つての撮影は良い経験になり、美容表現の意味を考え表現を行うという点においても、今後の美容活動への糧となると感じた。

謝辞

作品を制作するにあたり、多くの先生方、および職員の方々に大変お世話になり、感謝申し上げます。

1) OHIRA Erika KURIMOTOYoshinori KAWANO Seiji
KIKUCHI Shinji NISHI Masataka YOSHIKAWA Nanako
TOMITA Tomoko
山野美容芸術短期大学
連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530



タイトル : Torreip

人体、化粧毛髪、紙粘土、紙、ボンド、ピン、整髪料